

FSRJ 会長就任のご挨拶

FSRJ 会長

真下 清

(日本大学理工学部 教授)

私は去る 6 月 2 日に開催された平成 20 年度プラスチック化学リサイクル研究会(FSRJ)総会において会長に選出されましたので会員の皆様にあらためてご挨拶を申し上げます。

奥彬前会長を始めとして歴代の会長に比べ浅学非才の身でありながら、本研究会の会長職をお引き受けした理由について簡単に述べさせていただきます。

FSRJ の会員は 50 歳前後以下の人が多く、私のような 60 歳以上の人は少ないと聞いております。そのため会員のなかでも私は年長者の部類に入るため、年長者と若い会員の橋渡しをする役割を担って会長に選任されたものと考えています。会長に就任したからにはその重要性を十分自覚しつつ、全力を傾注する所存です。

本総会で「プラスチック化学リサイクル研究会」から「プラスチックリサイクル化学研究会」への名称変更が認められましたが、これによって会則における本会の目的が改訂され、その幅が広がったものと思います。すなわち「プラスチックの分解または関連現象など化学リサイクルに関する科学および技術の発展を図ること」から「プラスチックおよび関連する材料の化学的手法を取り入れた循環再生と有効利用に関する科学および技術の発展を図ること」に、その守備範囲が広がり、社会のニーズに、より応えられるものになったと考えています。

私事で恐縮ですが、私は埼玉県狭山市という人口約 16 万人(世帯数約 6500)の典型的な地方都市に住んでいます。狭山市は分別収集が徹底していて、廃プラスチックは週一回の回収作業が実施されています。市当局に聞いたところでは現在市の 85%で実施され、1 ヶ月平均 210 トンが回収されています。この中にはポリバケツやCDのような硬質プラスチックも含まれていますが、PETや白色トレイは含まれていません。本年 10 月に市全域の回収が始まるようですが、その場合約 250 トンが回収されると予想されます。これらの数値から考えた時に、日本全体で膨大な量排出される廃プラスチックを有機資源として石油、石炭、天然ガスに次ぐ 4 番目の一次エネルギーと考えてもよいのではないのでしょうか。二次エネルギーとしてのプラスチック製品は廃棄された瞬間に一次エネルギーとして考えて、生活に役立つ物質に変換する必然性がでてくるものと言えましょう。熱エネルギーとしての回収は誰でも考える方法であって、CO₂の問題を考慮するなら、最後の手段であり、簡単に実行すべき方法ではありません。

本研究会はやはり新しい目的にそった循環再生と有効利用に関する科学や技術の発展に会員各位の英知を結集する必要性を喚起しつつ、社会を啓蒙する情報を発信続ける努力をしなければならぬと考えます。

会員の皆様のご協力とご支援をよろしくお願い申し上げます。

